

1. 件名：「泊発電所3号炉の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（175）」

2. 日時：令和5年11月15日(水) 13時30分～15時05分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与

北海道電力株式会社：松村執行役員 他9名

（このうち1名はテレビ会議システムによる出席）

三菱重工業株式会社 2名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（日本海東縁部に想定される地震に伴う津波・地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せ）（水位下降側に係るコメント回答）
- ・ 泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（日本海東縁部に想定される地震に伴う津波・地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せ）（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	規制庁谷です。それではヒアリングを始めたいと思います。今日のヒアリングの内容としては基準津波に関するコメント回答ということで、本編と、
0:00:13	あれですね補足説明資料というのが、
0:00:17	今日受け取ってる資料で、
0:00:20	ヒアリングを行いたいと思います。内容としては、
0:00:24	津波の組み合わせのうち、水位下降側に関するコメント回答ということで、まず資料のご説明をお願いいたします。
0:00:35	はい。北海道電力の松村です。本日のヒアリングよろしくお願ひいたします。今ほど谷さんからありました通り基準津波の下降水位下降側に関わるコメント回答ということで資料を説明させていただきます。
0:00:49	説明はアオキからしますよろしくお願ひします。
0:00:53	藤北海道電力の青木です。糖水加古川のコメント回答につきまして、70ページほどの本編資料を用いて説明させていただきますと説明時間20分ほどを考えております。
0:01:06	また、これまでの必審査の経緯というところになります、追加古川については10月11日のヒアリングで一度内容を説明している状況でございます。
0:01:17	ですがその加工場については全体の論理構成が重要かと思ひますので今回一通り通して説明させていただきます。
0:01:24	の説明に移らせていただきます。
0:01:26	当資料の2ページをお願いいたします。
0:01:29	こちらでは今回の資料の説明範囲を明示化したものになっております。と水位下降側の評価というところで、残されている審査上の論点の5番と7番、
0:01:40	についての回答の位置付けになっております。
0:01:43	続いて3ページをお願いいたします。
0:01:46	こちらはこれまでの審査会合の指摘事項をまとめたものになっております。
0:01:51	と令和5年3月24日の審査会合のコメントNo. 33と34。
0:01:57	あと前回の10月20日の審査会合のコメント回答No.の35番に対する回答の位置付けとして今回資料を整理してございます。
0:02:05	詳細については割愛させていただきます。
0:02:08	4ページ目をお願いいたします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:11	こちらでは水加古川の概要について1ページで取りまとめたものになっております。
0:02:17	最初に経緯と方針になりますが、対加古側の評価として安全側の評価となるように、波源の特徴を踏まえた上で、貯留堰を下回る時間を設定しまして、
0:02:27	これを評価項目に変更しております。
0:02:30	こちらについては前回の審査会合のところで方針をお伝えしたところになっております。
0:02:35	この表町利益を下回る時間に基づきまして、日本海島縁部に想定される地震に伴う津波の評価、あと地震に伴う津波と地震以外の要因伴う津波の組み合わせの評価のうち下降側、
0:02:47	について検討を行いまして貯留堰を下回る時間に対して影響の大きい波源を選定する方針としております。
0:02:54	当資料の中段に波源の選定方法を記載してございます。
0:02:58	大きく選定方法01と02の二つの選定をやっております。
0:03:03	選定方法の①からですが、城井関を下回る時間を評価項目としました日本海島縁部に想定される地震に伴う津波単独のパラメータスタディを行いまして、またその
0:03:15	評価因子の影響分析を実施した上で、貯留堰を下回る時間と水位下降量の最大ケースを選定していきます。
0:03:23	その最大ケース選定した波源を用いて、組み合わせ評価を実施しまして、
0:03:28	組み合わせ評価上の処理時期を下回る時間の最大ケースを選定するという方法になっております。
0:03:34	続いて右側の選定方法②です。
0:03:37	水位上昇側の波源選定の中のられた知見というところで、地震に伴う津波の最大ケースが必ずしも組み合わせ評価の最大ケースになるものではなかったと。
0:03:48	いうところを踏まえまして、水位溢水下降側の評価として、上昇側として移送の変動高齢者組み合わせ評価、
0:03:56	の検討結果を踏まえた上でも、貯留堰を下回る時間の最大ケースを選定していきます。
0:04:02	ここで水位上昇側の評価については、前回の審査会合10月20日の審査会合で実施したケースに該当いたします。
0:04:11	下段の波源の選定結果になりますが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:14	この選定方法 0102 から選定した最大ケースを対象に以下の確認によって最大ケースの妥当性を確認しております。
0:04:22	の一つ目の矢羽根ですが、地震に伴う津波の上昇側の 2 羽と 4 は、の間の引き波時と陸上地すべりカワセアノ加古川の波が貯留堰の下回る時間が長くなるような位相の関係で重なっております、
0:04:36	組み合わせとして貯留堰を下回る時間が長くなる移送の波源が選定できているというところを確認いたしました。
0:04:42	その結果、処理時期を下回る時間が、2 羽と 4 はの間の引き波で形成される、その上限値に近い値になっていることを確認したことから、これ以上、貯留堰を下回る時間が長くなる可能性はないと。
0:04:55	これを踏まえまして最大ケースの妥当性を確認しております。
0:05:00	一番最後、波源選定の結果になりますが敷地に対して大きな影響を及ぼす波源として、加古川として 4 波源を追加してございます。
0:05:10	続きまして 7 ページに、1 章における説明の流れを記載してございます。
0:05:17	1 章では本日の説明概要というところになっておりまして、
0:05:21	今回説明する水加古側の評価につきましては、前回の審査会合における説明内容であります、波源の特徴の上昇側が関連してくるところから、
0:05:31	まず前回のおさらいというところで、泊発電所の波源の特徴についてご説明させていただきます。
0:05:37	ここで水位下降側の評価では、水位変動量大きい波源の振幅が大きく、水位が低下する時間も長い傾向があることに起因しまして、
0:05:46	前回の上昇側の審査会合の検討ケースからも、貯留堰を下回る時間の最大ケースが選定されるため、
0:05:52	こういったところから、前回の会合の内容を最初に説明するというところになっております。
0:05:58	その後、詳細な説明というところで、
0:06:01	追加コガの評価を説明した上でその最大ケースとして敷地に対して大きな波源及ぼす波源の選定結果を説明するという流れになっております。
0:06:11	続いて 8 ページから 11 ページにかけてが、まず、
0:06:16	上昇側の泊発電所の波源の特徴を説明したものになっておりまして、こちら前回の会合の内容をもう少しわかりやすくしたというところになっておりますので詳細な説明については割愛させていただきます。
0:06:30	12 ページをお願いいたします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:36	水位上昇側の組み合わせ評価として何をやってるかっていうところを、ここでおさらいをしているというところになっております。
0:06:43	前回の会合の上昇側の評価としては、の組み合わせ評価ピークが重なる波源の組み合わせ評価、
0:06:50	飛びの1の地震に伴う津波の最大ケースの組み合わせ評価、最後にB-2の地震津波の最大ケースの位相変動考慮者組み合わせ評価。
0:06:59	という三つの組み合わせ評価を前回会合では説明しております。こちらを用いて下降側についても説明しますのでおさらいというところで説明させていただきました。
0:07:10	続いて14ページをお願いいたします。
0:07:17	ここから下降側の評価の具体的なところになっております。評価の方針と検討フローになっております。
0:07:24	評価方針としましては、
0:07:26	ガイドを踏まえて、敷地に最も影響大きい影響を与える波源であります貯留堰を下回る時間の最大ケースを基準津波として選定するというところを宣言してございます。
0:07:37	下降側の評価については、以下の検討フローの順で検討を行いまして、処理事業者も主巻の最大ケースの選定結果とその妥当性を示すと。
0:07:46	いう流れになっております。検討フロー、大きく四つの項目に分かれておりまして、
0:07:52	(1)では波源の特徴、(2)は日本海島縁部の評価、(3)では組み合わせの評価というところになっております。
0:07:59	この(1)から(3)というところで、貯留堰を下回る時間の最大ケースの選定プロセスを示しております。
0:08:06	最後(4)というところで、選定した貯留堰を下回る時間の最大ケースの妥当性を確認しております。
0:08:14	指摘事項のうち、加古川の選定の妥当性というところに関するコメント回答は主に2章の(4)というところになってございます。
0:08:23	その妥当性を確認した上で、参照というところで敷地に対して大きな影響を及ぼす波源に選んでおります。
0:08:30	続いて15ページが、泊発電所の加古川の波源の特徴になっております。
0:08:36	こちらは10月11日のヒアリングの説明した内容と同じですので詳細は割愛させていただきます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:43	記載してる内容としましては、2ハタ4は、がどういう上昇側の2ハタ4は、どういった波であったりその2羽と4羽の間が、約25分あるというところを説明したページになっております。
0:08:57	次、16ページでは、日本海島縁部に想定される地震に伴う津波の評価になっております。
0:09:04	日本海島縁部に想定される地震に伴う津波の評価については、前回、令和4年の5月27日の審査会合において説明しておりまして、その検討内容を用いて貯留堰を下回る時間を対象とした検討を実施しております。
0:09:20	具体的には一つ目の矢羽根で、水加古川の評価項目を、前回ですとパルスを考慮した時間、パルスを考慮しない時間としておりましたが、
0:09:29	これを貯留堰を下回る時間に変更しまして、そのパラメータスタディを実施して、地震津波の貯留堰を下回る時間と水位下降量の最大ケースを選定しております。
0:09:41	またこのパラメータスタディの結果を用いまして、書類を下回る時間に関するパラメータスタディ評価因子の影響分析を実施しまして、パラメータスタディのフローオダ等、フローの妥当性を確認しております。
0:09:55	具体的な右側にパラメータスタディのフローを書いておりましてステップ1の1からステップ4、記載してございます。
0:10:01	こちらのフローについては前回と同様になっております。
0:10:05	このフローを一通り貯留堰を下回る時間に対して流してえられた最大ケースが、16ページの下段の表に書いてあるケースになっております。
0:10:15	その過程というところで、パラメータスタディの結果を用いまして、左側に書いております。評価因子の影響分析をやっております。
0:10:23	この評価因子の影響分析については、断層パラメータを変動させたときの上限値と、最大値と最小値の差分をとって、それを変動幅と定義してその変動幅が、
0:10:35	概略パラメータスタディのものが大きいというところを確認して、パラメータスタディの順序の妥当性を説明したものになっております
0:10:44	当検討やってること自体は前回の会合と同様になりますので、また後程詳細を説明させていただきます。
0:10:51	続いて17ページに移りまして、組み合わせ評価になっていきます。
0:10:58	オカコガの組み合わせ評価というところは大きく二つの組み合わせ評価から最大ケースを選ぶというところを説明したところになっておりまして、
0:11:07	一つ目の丸が、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:08	地震津波の最大ケース。
0:11:11	16 ページの過去、下段に書いた最大ケースを波源対象の波源として組み合わせ評価をまずやっております。
0:11:19	これに加えて、水位上昇側として位相の変動を考慮した組み合わせ評価、
0:11:24	さきに説明したAからB-2 の組み合わせ評価を使って、
0:11:28	組み合わせの時間差を 5 秒ピッチでパラメータスタディ結果した結果から、長利益を下回る時間の組み合わせ上の最大ケースを選んでおります。
0:11:38	中央にそのフローを簡単に書いておまして、左側の※1 で書いてるものが、加古川の地震津波のチャンピオンケースに対して組み合わせ評価をやったものになっております。
0:11:50	これ、健全地形モデルの例を 1 例として記載しておりますがその場合ですと、2 波源選んでおまして、その波源を対象に、
0:11:58	組み合わせの時間差のパラスタをやって最大ケースを出しております。
0:12:03	また右側の※2 で書いてるものについては、上昇側の組み合わせ評価と言っているものでして、
0:12:10	こちらは、水位変動量が大きいと、下回る時間が長くなるという傾向があるというところ。
0:12:16	ありますのでそういった理由も踏まえて、上昇側の組み合わせ評価からも、
0:12:21	貯留堰を下回る時間の加古川の最大ケースを、
0:12:25	算出しております。
0:12:26	この二つの評価から、処理時期を下回る時間の組み合わせの最大ケースを下段のように引っ張ってきておまして、
0:12:34	その選定のプロセスを見ていきますと、健全地形モデルでは、B-2 と、上昇側の組み合わせ評価から最大ケースが選ばれております。
0:12:43	損傷モデル①②では、の組み合わせ評価、③では、
0:12:49	B-1 の加工。
0:12:51	地震津波の加古川のチャンピオンケースに対して組み合わせ評価をやったケースから選ばれているというところになっております。
0:12:58	一番下の箱書きになります。が組合評価における調理時期を下回る時間の最大ケースが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:04	とB-1の地震津波の下降側のチャンピオンケースにした組み合わせ評価以外からも、
0:13:10	選ばれているというところを踏まえて、以降では波源選定の妥当性を確認しております。
0:13:17	続いて18ページからは、最大ケースの妥当性確認になっております。
0:13:23	その貯留堰を下回る時間が長くなるメカニズムを踏まえた上で、以下の二つを示した上で最大ケースの妥当性を確認しております。
0:13:32	朱書きで書いているものについては、貯留堰を下回る時間の最大ケースに対して移送の変動を考慮する必要がないとする根拠を整理したのになっております。
0:13:41	こちらについては、地震津波の加古川の波と川白の加古川の波が重なっているというところの確認できておりますので、一層の変動を考慮する必要がないというふうにしております。
0:13:52	また書きで書いているものは、最大ケースの波源選定の妥当性と、
0:13:57	いうところで、組み合わせの貯留堰を下回る時間が上限値に近いというところを確認したのでこれ以上時間が長くなる可能性はないというふうに整理しております。
0:14:08	この上限値についてはまた後程詳細なところは別途説明させていただきます。
0:14:15	続いて19ページをお願いいたします。
0:14:19	当初累積を下回る時間の波源選定において位相の変動を考慮する必要がないとする根拠について、水位上昇側と水加古川の波源選定における位相変動の考慮の違いを示すことで説明させていただきます。
0:14:33	その結果、組み合わせ時間差の変動を考慮することで、地震津波の下降側の波と川白の下降側の波が重なるため、
0:14:41	東西方向位置等、上昇側で検討したものについては、花崗岩に対して考慮する必要はないというところを確認しております
0:14:49	中央に移送に影響を与えるパラメータについて整理しております。同組み合わせ評価において、炊事合計れ水時刻歴派遣の移送については、主に二つのパラメータの変動によって変化するものと整理しております。
0:15:03	一つは組み合わせの時間差。
0:15:06	こちら組み合わせの時間差の変動を考慮することで、川白の発生時刻が変化しますので、直接的に移送に影響を与えるというところになります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:15:15	二つ目、東西方向位置等、
0:15:18	こちら地震津波の到達、東西方向位置の変動を考慮することで、地震津波の
0:15:24	磯が、
0:15:25	早くなったり遅くなったりするということ、
0:15:28	もうこれの東西方向位置を変動させることで一層も変動するということがあります。
0:15:34	ここ水位下降側については、すでに組み合わせの時間差の変動を考慮した上で、貯留堰を下回る時間の最大ケースを選定しておりますので、
0:15:42	指摘事項のNo33 移送の変動の考慮の有無については、東西方向位置等を変動する必要があるかどうかという観点から整理しております。
0:15:53	ここで水位上昇側では東西方向位置等の変動を考慮しておりますので、上昇側と加古側でその考慮の有無の違いを整理しております。
0:16:01	左側が上昇側右側が加古川という並びで整理しております。
0:16:06	まず①では、組み合わせの時間差の変動としてTsからTs+TDの範囲、
0:16:13	5秒ピッチで考慮した場合に、上昇側では、上昇側のピークとカワセのピークは重ならなかったという結果になっておりました。
0:16:22	一方下降側については加古川の波と下降側の波が重なるという結果で重なる重ならないという結果が上昇と下降で異なります。
0:16:31	続いて②というところでの上昇側では、
0:16:35	地震津波の最大ケースではない波源であっても、そのピークが川白とかそうなる場合には、組み合わせ評価の水位が高くなる可能性がありました。
0:16:44	一方加古川の波についてはもうすでに重なっているということで、上限値に近い値になっているのでこれ以上貯留堰を下回る時間が長くなる可能性はないと。
0:16:53	いうふうに整理しております。
0:16:55	③が結論になりまして、上昇側については、高くなる可能性が水位が高くなる可能性があったので、東西方向位置等の変動を考慮した。
0:17:04	下降側については、もう上限値に近くてこれ以上長くなる可能性はないので、変動を考慮する必要はないというような形で整理しております。
0:17:14	藤最後、20ページが下降の妥当性確認の結論になります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:20	と健全地形モデル防波堤損傷を考慮した地形まで 1 から 3 の処理時期を下回る時間の最大ケースに対して、
0:17:28	貯留堰を下回る時間が長くなるメカニズムを踏まえた上で、以下の二つを示したことから、最大ケースは妥当であると考えております。
0:17:36	一つ、位相の変動を考慮する必要がないとする根拠については、加古川の波とかコガの波が重なって貯留堰を下回る時間が長くなるように、
0:17:46	なるような移送の関係になっていると、また波源選定の妥当性としては、加古川の波が重なったことで、組み合わせ評価における距離的を下回る時間が上限値に近い値になっており、
0:17:57	これ以上長くなる可能性はないと。
0:18:00	ところから最大ケースは妥当であると考えております。
0:18:04	また最終的に選んだ最大ケースを中央に記載してありましてこの 4 波源は、
0:18:10	組み合わせ上の最大ケースというふうと考えております。
0:18:14	続いて、22 ページ、23 ページでは、敷地に対して大きな影響を及ぼす波源の選定結果になっております
0:18:23	こちら上昇と同様でして地形モデルごとの最大ケースを選ぶという観点から、4 地形のうち四つの波源を選んでいるというところになっております。
0:18:35	ここまでが説明の概要でして、残りの資料の説明については、概要で説明できなかったところというところで、
0:18:43	順に説明させていただきますちょっとページ飛びますが、
0:18:47	1032 ページお願いいたします。
0:18:54	藤さん 12 ページ以降では、津波の波源の特徴というところで伝播。
0:19:00	の状況を整理しております。
0:19:02	こちらについては前回のヒアリングでも説明してる内容と同じになっております。
0:19:08	続いて 38 ページをお願いいたします。
0:19:14	概要のところでは、詳細な説明を割愛させていただきましたが、38 ページではパラメータスタディ評価因子の影響分析の結果についてまとめております。
0:19:26	まず一つ目のポチですが、処理時期を下回る時間の変動幅については、水位の変動幅と比較して地形モデルごとのばらつきが大きいというところから大局的な傾向を確認するために地形モデルごとの値を平均した上で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:40	飲酒の影響分析を実施しております。
0:19:42	その分析結果というところで、貯留堰を下回る時間では、概略パラメータスタディの評価因子であります、ばアスペリティ位置の変動幅が最も大きく、貯留堰を下回る時間に与える影響が最も大きいというところを確認しております。
0:19:57	また詳細パラメータスタディの因子であります波源位置、上縁深さについてはこの概略パラメータスタディの因子と比べて、変動幅が小さい傾向がありますので、この
0:20:07	時間に与える影響は小さいというふうに整理しております。その結論というところで、パラメータスタディフローの妥当性を確認しております。
0:20:18	また、検討の変動幅の算出例というところで右側に断層パターンやアスペリティ時は元一条深さ
0:20:24	を横軸に変動させた場合に下回る時間がどのように変わるかっていうところをグラフ化しております。
0:20:31	説明してきている変動幅というのは、パラメータを変動させた場合の上限値と、
0:20:37	最大値と最小値の差分というところで整理したものになっております。
0:20:42	その結果、処理事業下回る時間に対してはアスペリティー位を変動させた場合にその最大値と最小値の
0:20:49	差が大きいというところを整理したものになっております。
0:20:53	また 39 ページについては、前回の審査会合で説明してきている内容、
0:20:59	佐伯一部修正という形で載せたものになっております。
0:21:03	と説明の仕方や内容については、38 ページの貯留堰を下回る時間、
0:21:08	と同様な整理をしております。
0:21:12	結論については、処理時期を下回る時間でも、前回のパレスを考慮しない時間でも、同じような結果になったというふうに考えております。
0:21:23	続きまして、
0:21:25	ページ飛びまして、44 ページお願いいたします。
0:21:34	組み合わせ評価の結果というところで、概要のところでは健全地形モデルを 1 例として説明させていただきましたが、44 ページ 45 ページにかけて四つの地形モデルの結果を掲載しております。
0:21:48	44 ページの上段で健全地形モデルの結果を書いております、
0:21:53	この表中の上から二つの 2 行っていうところが、下降側のチャンピオンケースを対象に組み合わせたものの結果になっております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:01	また下段のAの評価からB-1 上昇B-2 っていうものが、前回会合で示した上昇側の評価のものになっております。
0:22:09	健全地形モデルについては、このうち、AとBの2 下から二つ目のB-2 の組み合わせ評価から、調理できる下回る時間の最大ケースが選ばれているという結果になっております。
0:22:21	同様な見方でして、44 ページ下段では、防波堤損傷①の結果をまとめたもの。
0:22:27	45 ページ上段では、②の地形モデル。
0:22:30	下段では丸さんの知見モデルという形で整理しております。
0:22:34	それぞれ赤枠で囲ったものが、最終的な組み合わせ評価の最大ケースになるところというところを示したものになっております。
0:22:45	続きまして 48 ページをお願いいたします。
0:22:56	衛藤概要の中では、長利益をした時間が長くなる理由のメカニズムを分析したというところをまとめたものが 48 ページになっておりまして、
0:23:06	こちらは簡潔に言いますと、加古川の波と、加古川の波が重なった結果、
0:23:11	組み合わせ評価の貯留堰を下回る時間が長くなったというところをまとめたものになっております。
0:23:20	続いて、50 ページをお願いいたします。
0:23:24	50 ページには、上限値というところを概要で説明しましたが外へ上限値を、の考え方をまとめたものになっております。
0:23:34	左側の箱書きになります。組合評価における猪利益を下回る時間の上限値を検討しております。
0:23:41	ここでカワセらの下降量っていうものは、4 メーターでありまして、また貯留池の天端高さっていうものもTP-4 メーターになっております。
0:23:50	これ仮にすべての時刻において地震津波の水位時刻歴は径が一律 4 メーター下がると仮定した場合においては、水位下降側の組み合わせ評価として最も保守的な評価になると考えております。
0:24:03	ここで読めた下げた過程、
0:24:06	をした理由というところで、川白の下降量が 4 メーター程度であることを踏まえて、すべての時刻において、
0:24:12	この下降量が 4 メーターであると仮定した場合、
0:24:15	と同様であるというところから地震津波を 4 メーター下げたいうところになっております。
0:24:21	この、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:22	こういった評価から求めた貯留堰を下回る時間というものが、組み合わせ評価における貯留堰を下回る時間の上限値でありますのでそれを上限値というところで整理したのになっております。
0:24:42	コウノ資料については基本的に概要で説明したところの繰り返しになりますので、
0:24:48	説明花崗岩に関する説明は以上とさせていただきます。
0:25:03	規制庁谷で説明ありがとうございました。資料の方確認していきたいんですけども、
0:25:12	ちょっとですねまずコーセーの方から、資料構成の方から、
0:25:16	何点かあって、
0:25:28	確か 2、青木さん説明している、7 ページでね。
0:25:33	まずちょっと水位上昇側のおさらいをしますみたいなことが書いてあって、
0:25:41	次の 8 ページから、水位上昇側で特徴を整理しているみたいな。
0:25:47	何か、
0:25:47	この辺、別に、
0:25:50	例えば 8 ページ 9 ページなんていうのは、水位上昇側を説明するって、何か言わなくてもいいんじゃないのかなって思っていて、
0:26:00	要するに泊発電所の、
0:26:03	いや僕は何言いたいかといういきなり上ショウガンの説明をコウがは、この今回の会合で始まるのが、何で何でみたいな感じになって、それをするために 7 ページにちょっと何か、
0:26:15	こうこうこうでって言って、しなくていい、いいような説明がこう書かれているっていうのが、ちょっと何か入りにくいなって思っていてるんですけども。
0:26:26	何かいきなり水位上昇側の説明が八、九であると。
0:26:32	特に 11 ページなんか水位上昇側でこんな検討しています。
0:26:36	12 ページとか、
0:26:38	ていう。
0:26:39	この辺の話は、もう 1 回会合で聞いてて、実はそんなに重要じゃなくて、ただ中身に関連するっていうことであれば例えば 1111、2012 ページなんかこう、
0:26:51	最後補足のよう形で扱ってもいいといいと思うんですよね。ただ、
0:26:59	八、九十っていうのは別に上昇側説明しますって言わなくても、泊発電所の波の伝わり方をこう説明しますっていうので、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:09	何かよさそうな気が。
0:27:11	するので、ちょっとタイトルだとかを考えてもらったらいいのかもしれないんですけども、
0:27:18	何か説明の順番がね、
0:27:21	わかりにくかったなという、ちょっと感想です。
0:27:25	あとは、
0:27:27	そのあと概要っていうのが 14 ページから始まるんですけども、
0:27:32	これもう、何か
0:27:35	57 ページ以降に、
0:27:39	まとめて言って書いてて、
0:27:41	これと、
0:27:43	見る限りおんなじなんですかね、64 ページまでと。
0:27:49	おんなじです。ちょっと何か違うものがついてるんですか。
0:27:52	北海道電力の青木です。1 章で言ってる概要っていうところと、2 ポチの括弧をまとめてっていうところ同じ内容になっております。以上です。
0:28:03	うん。いや、もしそうならこれいらいんですよ。
0:28:07	要らないですよっていうのが
0:28:09	まとめのところ要らないですよおんなじイノマタコウ。
0:28:13	付けられても、
0:28:17	概要で、この本当の概要が伝わるようなものを前に持ってきてるんだっていう、
0:28:23	話なら、
0:28:25	最初に持ってきたものが、もう概要で、その他の、
0:28:29	ちゃんとした内容はその以降にありますっていうことであれば、
0:28:34	うん。
0:28:35	まとめの部分はいらいかなと思います
0:28:44	ちょっと中身を、
0:28:47	順番に、
0:28:48	確認していこうかと思うんですけども、
0:28:51	4 ペイジー
0:29:08	ホームページの波源の選定方法っていうので、
0:29:12	①番っていうのはあれですよ、今回パラスタしたものを、地震に伴う
0:29:18	日本海島縁部の津波で最長になったものを、
0:29:22	見ますよ。
0:29:23	ということですよ。それは普通のやり方だと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:27	②が、
0:29:32	これまで説明しているような派遣は、
0:29:37	そう、それも考慮しますよって話なんですよ。
0:29:41	ですわねえ。
0:29:46	なんかねこのこと、説明だけではね何でこれなんで、
0:29:50	何でこれを見とけばいいって思ってるのかっていうのがよくわかんないですよ。だって、
0:29:56	波源の選定方法②で書いてあることとしては、
0:30:00	水位上昇側でられた知見として、
0:30:03	地震の最大だけを見とけば、
0:30:06	いいものではない。
0:30:11	っていうのはそうなんでしょうね。
0:30:13	で、
0:30:14	ことを踏まえ水位上昇側の、だから水位上昇側の、
0:30:19	組み合わせ評価からも、最大ケースを選定するっていうことなんですけど、
0:30:23	この話だったらじゃあ、
0:30:27	それだけで十分なんですかっていう話に
0:30:30	なって、前なんか話、説明してた
0:30:35	何でした。
0:30:37	振幅が大きいものこそ、時間が長くなるんだ。
0:30:41	ていう、
0:30:43	そういうことを言ってたのがこれなんじゃないん。
0:30:48	ちょっとここ、
0:30:50	この選定方法 02 のコール。
0:30:52	何を説明しているのかっていうのをちょっと確認させてください。
0:30:57	当北海道電力の青木です。この選定方法 02 っていうところで、我々の考えというところになりまして、
0:31:05	上昇側の検討結果は前回会合で説明したところですがその中では、地震津波の最大ケースを組み合わせたら、組み合わせ評価の最大ケースになるっていう結果ではなかったと。
0:31:17	いうところがまず、前回の上昇側の評価の中で出てきた結果でありました。
0:31:22	そういったところを踏まえてくると、同加古川についても、別の波源からも選ばれる可能性があるかもしれないというところがありましたので、ま

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	ず結果を持ってる水位上昇側として移送の変動高齢者組み合わせ評価、
0:31:36	をやっておりますのでその結果からも、貯留堰を下回る時間について、結果を見てみてその中から最大ケースを選んでいるというところになっております。
0:31:45	そういった中で、何で上昇側から選ばれるんだっていう理屈を考えたときには、
0:31:52	上昇等、資料の後半でも説明してるところがあるんですが、変対変動幅が大きいものっていうのは、下回る時間に対しても影響が大きいと。
0:32:03	いう理屈かなというところを、後付になります但其の影響、
0:32:08	その理屈を補足したものという位置付けを考えております。どう。
0:32:12	以上です。
0:32:34	回答でリングのアオキですと 17 ページに記載してございます。
0:32:40	ちょっと前半の
0:32:42	4 ページ等、微妙な言い方とか違ったりするんですが、言いたいことの趣旨というところは 4 ページと 17 ページで同じと考えておまして、17 ページの
0:32:52	※1 に該当するところが 4 ページの選定方法 011 でコンビニ該当するところが選定方法 02 に該当していきます。
0:33:02	1000、0 に該当するコメン 2 のところで、備考というところで、何で上昇側を用いて整理するのかっていう理由というところでこの
0:33:13	水位変動幅が大きいと取引をした時間が長くなるからだという理由を、後付けになります其説明しているというところになっております。以上です。うん。わかりました。わかりましたというのが、
0:33:25	やっぱり振幅が大きいものを選ぶ。
0:33:30	パラスターで地震単独で長くなるものも、
0:33:34	やるんだけどそれ以外にも振幅が大きければ、長くなるかもしれないっていうのを考えて、この波源の選定②っていうのがあるんですよねと。
0:33:44	いうことが、多分今の 4 ページの記載では最初に説明することとしてわからなくて、で、なおかつこの選定方法 02
0:33:54	をやることによって、北海道電力としては網羅できるん。
0:33:59	と思っているっていうようなことが、もう少しね、
0:34:02	ちゃんといや、今わかりました 17 ページとかで、そういう考えがあるんだけどでも 4 ページではちょっとこう、
0:34:09	説明を省いてるっていうことなんだと思うんです

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:34:12	それは、
0:34:13	考え方としてちょっと変えてもらわないと。
0:34:17	ここでいきなりこう引っかかるような、
0:34:21	感じになるかなと思いました。
0:34:27	で進んでいってですよ。
0:34:32	うんで、
0:34:33	なんかね、15 ページ
0:34:37	この
0:34:39	中 45 で、
0:34:43	15 ページこれ、
0:34:45	結構大事な説明なんだと思うんですよ第 2 ハダ 4 はの、
0:34:49	さあ、時間差時間の差が大きな変化がないんだよってこれ、
0:34:54	多分これ、
0:34:56	後半のロジックの中でかなり
0:35:00	大事になってきそうなところに僕は感じたんですけども、
0:35:05	もう少しこの辺を、だから何なんですかというようなことをですね、考えて ることがあるんだったら、
0:35:11	変えたらいいのになあって思うんですよ。25 分に大きな差が生じない だから何なんですかっていうようなところですね。
0:35:19	で、
0:35:20	もう 1 個は、
0:35:21	それはちょっと感想の感想ですね 15 ページを読んでみて、
0:35:26	もう 1 個はなんかねこの下の括弧しか、下の四角なんですけれども、
0:35:32	もうちょっとこう気をつけた表現をして欲しくて、
0:35:36	一つ目の丸は、
0:35:37	第 2 ハダ第 4 は、
0:35:40	は伝播経路の違いがありますよと。
0:35:43	いうことを、
0:35:45	だから 25 分の差が発生する。
0:35:47	なお、
0:35:50	今度は、
0:35:51	波源を移動させた場合においても、
0:35:54	津波の伝播経路速度が概ね同じであるってここなんか、
0:35:59	同じ電化経路が一つ目が違う。二つ目は、同じってというのが、言葉があ って、もちろん意味がわかってんすよ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:08	変えても、同じ波源は下同じ
0:36:12	おんなじだいたいこに這わ
0:36:16	第 2 はどうしよう変わらないって言ってるんでしょけど、
0:36:18	そこでなんかね、これ、言葉としてちょっと気をつけてこう書いた方がいいのかなあと思うし、多分 15 ページのね。
0:36:27	でもね若干
0:36:33	何か近づけた時と遠い時の、
0:36:37	この絵だったら、
0:36:39	若干経路変わるんじゃないのかなとか思うような声の書き方になってんですけど、その絵はちょっとあんまり、
0:36:45	僕はこだわらこだわらないけど、ちょっとそんな感想を持ったと。
0:36:50	いうところで、
0:36:51	この辺はいいですよ。何か言い回しの
0:36:56	北海道電力の青木です。
0:36:58	まず一つ目というところで 15 ページ左下のテキストボックスで、伝播経路が同じというところについては、もうこのまま読むと、何はと 4 判の伝播経路が同じってような見方も、
0:37:11	見方によっては、誤って見てしまうってところもあるかと思ひ、こころの言い方気をつけたいと考えております。言いたいところは西に移動させた元とヒガシに移動させた波源。
0:37:22	日本の伝播経路が同じ、4 羽の伝播経路が同じという趣旨でこれ記載してるところになっております。
0:37:29	また右上のところについても、
0:37:33	ちょっと、
0:37:35	考えさせていただきますと以上です。
0:37:41	はい。
0:37:45	あとは根井、次のページ。
0:37:47	16 ページ、これだからこれがあれですよ。
0:37:51	工程表でいう通しナンバー 5 まで戻りましたと。だから、日本海島縁部のコウパラスターをやったことについて、ちゃんと影響、
0:38:04	書評開始の影響分析っていうのをやりましたということなんですけど。
0:38:09	これでもう
0:38:11	16 ページ見ていくと、詳細パラスター
0:38:14	の部分、ステップ 3 ステップ 4 っていうのがありますよね。
0:38:20	これ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:21	ちょっと順番に言うと、ステップ 1 の 1、1-2 っていうのが、
0:38:26	これ、
0:38:28	1 箱、ステップ 1 っていう、
0:38:30	一つのまとめで考えてるステップ 2 の 12 の 2 っていうのは、一つのステップ 2 っていうまとめで考えてるっていうことで考えると、確かにコウ影響が大きい因子の順に、
0:38:42	やっているなっていうのはわかり、
0:38:45	ただ、詳細パラスタになったときにステップ 3 の方が、ステップ 4 よりも、
0:38:51	影響因子としてはこう小さいっていう説明になるんですよね。
0:38:56	で、今は、
0:38:58	概略パラスタの後に詳細パラスタやってるから、このやり方でいいんだっていう説明なんですけれども、
0:39:06	ただステップでいうと、
0:39:08	3 をやった後に、その 3 で残ったものを 4 をやるっていうようなステップになってて、
0:39:16	本当にこの 92 秒と 13 秒ってかなり大きいのに、この順番でいいんですかねっていうようなことが、
0:39:24	どこにも多分説明されていないと思うんですけど何かこれ考えあります。いやいや。
0:39:30	これ例えば入れ替えても、
0:39:32	こうこうこうで影響ないんですよとか、
0:39:36	何かあったらもう聞きますけど。
0:39:49	北海道電力の青木です。
0:39:51	ちょっと上縁深さと波源位置の関係性っていうところを、今すぐ回答できるような考察とか持ち合わせていないので、
0:39:59	どう検討したいと考えております以上です。
0:40:28	井谷です。
0:40:31	わかりました。ちょっとその辺私も資料見てですね確認していきたいと思えます。
0:40:38	要するに影響因子が大きい方から順番になっているのかどうなのかと、今の
0:40:44	ヤスダの順番が、上昇側と同じでいいのかっていう話ですね、その辺ちょっと。
0:40:51	資料ももう少し見ます。
0:40:54	で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:57	16 ページで、
0:40:59	わかりましたと
0:41:02	加工。
0:41:04	量下降量で選ばれるものと、
0:41:09	時間で選ばれるものっていうのが 16 ページ以降出てきて、
0:41:14	これは組み合わせに考慮するっていう励んでいいんですかねこの 16 ページの、
0:41:20	この
0:41:22	下に、
0:41:23	ノミネートされているものは、
0:41:26	北海道電力の青木です。16 ページ下段で書いております、荷掛 4 のマトリックスの表をすべてを対象にして組み合わせ評価を実施しておりますと、そのような認識です。
0:41:38	以上です。
0:41:40	うん。はい、わかりました。
0:41:48	それってどう読んだらそれがこれが全部、
0:41:52	検討するんですっていうことになるんですけどどっかにその辺はっきりしてあるんでしたっけというのが、下降側って書いてるんだけど、評価項目の中で、参考って書いてるわけですよ。
0:42:04	この表だけ見ると、
0:42:09	評価値っていうのが全部さん河内さん河内さん河内さんこっちって書いてて、
0:42:14	あれこれは全部、次に進むのかなっていうのが、
0:42:18	パッと読んでてわかりにくかったんだけど、
0:42:22	それは、
0:42:23	17 ページを見たらいいんですかね。
0:42:32	北海道電力の青木です。17 ページの一つ目のポチっていうところで、地震に伴う津波の最大ケース加古川前ページ参照というふうで、表現したつもりだったんですけど、
0:42:44	この記載ぶりだとどうなのかわからないっていうところかと思しますので、この辺り記載の適正化を図っていきたいと考えております。以上です。
0:42:52	井谷です。
0:42:53	うん。はい。お願いします。両方選ぶということで、多分僕が、ただ単にこの参考値っていうのに惑わされてしまってるだけだと思うので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:03	その辺はつきりわかるようにして欲しいと
0:43:06	いうところです。
0:43:07	ですね。
0:43:09	一定の確認の 17 ページで、この波源を組み合わせますっていうことを 言ってる、
0:43:16	これ
0:43:18	健全地形モデルをこれがここに出てて他の地形モデル 44 と 45。
0:43:24	で説明していますっていうことでこう見たんですけども、
0:43:30	これってあれなんですよ、僕の。
0:43:33	ちょっと思い違いもあるのかもしれないんですけど。
0:43:36	健全地形では、
0:43:39	健全地形では健全地形モデルでチャンピオンになったものを、
0:43:44	を使う。
0:43:47	で、ここ地形ごとに、
0:43:51	地形モデル市の場合の評価の波源は、
0:43:55	地形モデル市の各項目でチャンピオンになったものを使ってるってこと なんです。
0:44:01	かね。
0:44:03	ナカジョウショウガンって全部、
0:44:06	選ばれたものは全部他の評価地点でも何か、
0:44:09	検討していったような気がするんだけど、
0:44:13	どうなんです。
0:44:14	当北海道電力の青木です。
0:44:17	まず事実ということで、
0:44:21	下降側の最大係数については、地形モデルごとに若干波源が違うって いうところがあります。16 ページで、
0:44:30	具体的に言いますと、16 ページの水位下降量のケース見ていきますと 左の三つについては同じパラメーターなんですけれども一番右側、
0:44:40	については上縁深さ 3 キロというのはちょっと違う結果になっておりま す。
0:44:45	ここで組み合わせ評価としてどのケースを対象にするかっていうと、地 形モデルとこの波源というものはセットになると考えておまして、組み 合わせ評価状地形モデル③ではこの評価っていうところでは上縁深さ 3 キロを対象にやっております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:00	一方健全から①②っていうのは、上は後期のケースが最大のそのケースを最大にやってるところになっております。
0:45:08	また上昇側の考え方っていうところで、
0:45:12	44 ページ 45 ページで一覧で書いてるところになりますが、
0:45:18	これちょっと横並びかけていかないとわかりづらいところではあるんですが、Aの組み合わせ評価っていうものについては上昇側でも、すべての全部の事件について同じ波源を共通して実施しております。
0:45:31	B-1 っていうのが、日本海島エミのチャンピオンケースを対象にするっていうところでちょっと地形モデルごとに状況が違くと、さっき言った加古川と同じような状況です。
0:45:41	B-2 についても同様なものを、同様っていうのは、地形モデルごとの波源がちょっと異なっているという状況になっております。事実関係としては、そのような考え方になっております。以上です。
0:45:55	入ったんです。
0:45:58	ちょっと確認できなくて聞いてなんか僕も思い出さずつんなんなんで、もう少し確認させて欲しいんですけど。
0:46:07	要するに上昇側でやっているような組み合わせのやり方と、
0:46:12	向こう側でやっている組み合わせのやり方というのは対象対象ですね、組み合わせる対象の
0:46:19	考え方が若干違うってことでいいんですかね。
0:46:35	の電力の青木です。
0:46:37	藤。
0:46:38	上昇と下降の考え方っていうところでB-1 っていうのは、地震津波の最大ケースを対象に組み合わせ評価やってるっていうところで、その点については上昇側と加古側で同じ考え方に通しております。
0:46:52	一方加古川については、
0:46:55	Aの評価上昇がDの評価であったり、Bの2 っていう評価をやっていないというところの違いがあるというふうに認識しております以上です。
0:47:48	ちょっとですね私も上昇側の整理と、過去聞いた話シートが、対応が、
0:47:56	いまいち思い出せてない。
0:47:59	ようなので、僕もちょっと資料をもう1 回確認するんですけど、
0:48:04	ねこの根井
0:48:06	波源はどれですかっていう話をした時に 4445 ページみたいなこう最初こうなるのはわかるんですけど、
0:48:15	むしろね 16 ページで書いてあるような、1 回整理がもともとある。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:22	ですよね。Aに対しても、B、
0:48:25	Aはないのか、B1B2 っていうのは、
0:48:28	この表を 1 回出した上で、
0:48:32	どっから
0:48:34	ケースがきてるのかっていう関係が、
0:48:38	何かわかるようにして欲しいなって思うんですけども。
0:48:46	回動電力なわけです。ちょっとまとまてはいないんですけど結果が掲載されている場所というところでお伝えいたします。
0:48:53	と分厚い方の補足説明資料の方をお願いいたします。
0:49:03	江藤地震に伴う津波の最大ケースについては、260 ページ、
0:49:09	に掲載しております。
0:49:21	江藤、加古側については本編資料でも載せてるところにはなりますが上昇側については、前回、日本海島縁部の審査の際に上の四つのやつが最大ケースとして選ばれてもこちらを対象に組み合わせ評価をやっているというところになっております。
0:49:38	また組み合わせ評価の最大ケースっていうところも、
0:49:44	ちょっとまだわかりづらいかもしれないですけど 262 以降で解析の対象ケースとか、
0:49:51	いうところと、
0:49:55	あと、
0:49:57	5 章の、
0:49:59	各章の最後のページに、最大ケース一覧というところを、
0:50:03	掲載しております例えば 280 ページとかの最後とかに掲載しているものになっておりますちょっと今時点で、結果あるものっていうところでお伝えしました。
0:50:13	以上です。
0:50:18	はいたんです。
0:50:22	多分どっかで、本編の方でこういうのがまとまってあって、その地震に伴う津波の最大ケースがこうなっているから、
0:50:32	ここでこういう波源を検討しているんですっていうような関係が、
0:50:37	わかると。
0:50:38	我々もこうチェック、チェックというか
0:50:44	誤解なくコウ審議、議論できるかなと。
0:50:48	思うので、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:50	今のね、この 4045 見ててもね、どっどっからどう来ててどこの評価地点で最大になってるケースなのか。
0:51:00	正直わからないと。
0:51:03	いうことを言いたいんですけど、わかりますかね。
0:51:08	何物なのかわかんないっすよねって書いてから選ばれてるのわかるんだけど、
0:51:14	A-AはAはちょっと例が悪いのか、B-1 から選ばれてるっていうけど、
0:51:20	B-1 のどこのケース。
0:51:23	なんですかっていうのが、
0:51:25	わからないっていうところで、
0:51:28	当北海道電力のアオキです。Aの評価とかB-1B-2 の評価、デマチ系モデルごとの波源が違うってところが事実としてありますので、その関係がわかるようなものっていうところと、
0:51:40	あと、
0:51:41	16 ページの下段で書いてるのは、このようなフォーマットで見るとわかりやすいかと思しますので、そういったところをちょっと検討したいと考えております。以上です。
0:52:20	はい、わかりました。あとはね僕
0:52:23	あとでこの 1089 っていうのが特にコメント回答の部分では大事な部分になってくるんで、
0:52:30	これちょっとそのあとで
0:52:32	内容については話をしたいんですけど、細かな確認はするつもりなんですけれども、まずこの 18 と 19 の子関係がね。
0:52:42	わからない。わかりにくくて。
0:52:50	ん中 18 で説明してるのが、移送移送の変動を考慮する必要がないというのはこういう理由なんだよって言ってここで一生懸命説明。
0:53:02	一生懸命というかここで説明を
0:53:05	すると 18 ページで、
0:53:07	19 ページで、
0:53:10	さらに何をしたいかという、
0:53:17	その根拠を突い上昇側と下降側の位相の変動の考慮の違いを示すことで、
0:53:24	説明するって書いてるんですけど。
0:53:30	根拠を、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:53:31	根拠を上昇側と違うことの、
0:53:36	違いを示すことで根拠を押し、違う違う。
0:53:39	上昇側の考慮の。
0:53:41	下降側と考慮の違いを示すことで、
0:53:45	根拠を説明する。
0:53:48	ていう何か何かこの辺がよくわからなくて、ただ、やろうとしてることとしては、
0:53:53	基本的には 18 ページとかで、
0:53:56	分析した結果を使って、上昇側とどう違うんですかっていうのを、
0:54:03	説明している。
0:54:05	ていう。
0:54:06	ことを、
0:54:07	なのかなというふうに僕思ったんですけど。
0:54:11	新しいだからこの 19 ページから、
0:54:14	何かこの根拠を、
0:54:16	双方の組み合わせを
0:54:19	位相の違い、位相の変動を考慮考慮しない。
0:54:23	でいいという根拠みたいなものを 19 ページで説明しようとする、しているものではなくて、上昇側と若生違うんですよっていう説明をしようとしているのかと思ったんですけどそうでもないんですがこれは何かこう、
0:54:38	必要がないとする根拠をここでこう何か説明してるんですか。
0:54:42	北海道電力の青木ですと 18 ページと 19 ページの考え方っていうところで、18 ページは、一層の変動を考慮する必要がないとする根拠とか、
0:54:53	妥当性っていうところで小コウが下降側に対する結論になってくるところと考えております。
0:54:59	19 ページについてはその獲られた結論に対して、上昇と下降でちょっと考え方が違うように見えてますのでその内容を改めて整理したというところで行ってるところは、18 ページの結論。
0:55:12	ていうところを、また 19 ページをもう一度記載してるっていうところかと思ってます。
0:55:17	ちょっとその 18 ページ 19 ページの、言い回しとか見方っていうところがちょっとフォーマット違ったりしてその辺りが関係性わかりづらいのかなっていうふうに考えております。以上です。
0:55:29	入ってないです。多分ね、フォーマットが違う呉とかじゃなくて、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:33	やりたいことがうまく数個言葉にできてないんじゃないのかなっていうのを持ってて、ただ1 大事なものはあれなんですよね、下の一番、矢印より。
0:55:45	下の水位上昇側ではこうでした。加古川ではこうでした。それにはこういう違いがあるんですよっていうようなことを、
0:55:53	説明する。
0:55:56	したいという。
0:55:59	事だったら、多分その前置きがコウ。
0:56:03	前置きを読んでいくと何を、何を説明したいのかがわからなく、僕はわかりにくかったんですけど、
0:56:14	ちょっとこの辺は何を説明したいかを
0:56:18	もう1 回整理して、もっとシンプルに説明されてもいいのかなと今のご説明を聞くんですけどね、と思いましたが、どうですかね。
0:56:29	北海道電力の青木です。この19 ページに関してはわかりやすさの観点で、今のやつだと前置きが長くて、その結論に行くまで長いっていうところとかそういったところがいいかと思しますのでこの辺り資料の適正化を図っていきたいと考えております。以上です。
1:00:00	荒谷ですすいませんちょっと考え込んでしまいましたけれども、
1:00:06	考えてることは大体わかりました19 ページはだから、うん。上昇側と検討プロセスが違いますよっていうようなことを、
1:00:15	違います。その理由はこうなんですっていうようなことが入ってくるようなページと、
1:00:20	いうことかと思いました。
1:00:23	で、
1:00:25	20 ページが、
1:00:30	これはあれなんですかね、ちょっと繰り返してまとめた的に書いてあるっていうことでいいんですかね。
1:00:36	18 ページでは説明したことを、
1:00:43	書いてあるっていうことでいいんですか
1:00:47	北海道電力の青木です。
1:00:49	と説明している趣旨については18 ページ20 ページで共通しているものと考えております
1:00:55	以上です。
1:01:01	はあ。
1:01:02	それでまあ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:05	欠
1:01:06	子。
1:01:07	20 ページはだから、
1:01:12	妥当性の結果を説明している。
1:01:15	能登合わせて、
1:01:17	最大ケースはこうなりますよっていうのを、
1:01:22	説明したいのかな。
1:01:28	そういう
1:01:29	これはあれですか、17 ページとおんなG値なんです
1:01:40	抜くのアオキです。20 ページを作成したイトウというところで、加工、まず事実というところで 17 ページの一番下の過去最大ケースと、20 ページで書いてる花崗岩の最大ケースこれ同じものになっております。
1:01:55	20 ページそれをもう一度再掲した趣旨というところで、下降側のまとめに該当するところで、一番最後になりますので、最大ケースを示しておいた方が良かったらと。
1:02:05	いうところでもう一度再掲したものになっております。
1:02:09	またそれを妥当だっていうところも、言いたいところ、重要なところかと思えますので上段のテキストボックスも 18 ページで言ってるところをもう一度記載し直しているというところの位置付けになっております。以上です。
1:02:23	わかりました。
1:02:25	じゃあ、20 ページは、妥当性確認っていうようなタイトルではなくって、
1:02:30	水位下降側の評価結果のまとめ、その中に、妥当性の結果も説明していると。
1:02:37	言ったことになるんじゃないかなと思っ
1:02:40	いましたよ。だから、
1:02:43	妥当性の話だけじゃなくて、
1:02:46	結果としてこうなりますっていうのが多分、
1:02:49	説明しつつ、
1:02:50	こういうことを書くし、
1:02:53	あとは何気に
1:02:57	対津波設計において審査中であることが書かれているんだけど、
1:03:03	それはもう、
1:03:06	なんですけれども、これも例えば文章にしたらどうなんですかねっていうのはちょっと思いました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:13	単回津波設計において審査中なんだけれども、こういったかなり時間差がありますよとか、
1:03:24	或いは
1:03:25	この時間については、
1:03:27	今後プラント側にしっかり説明していくってようなことが、
1:03:32	何か書いてあればいいのかなというふうに思いましたけど、今の、何かこう、何か知らんけど
1:03:40	値だけ入れて、これなんですかっていう。
1:03:44	要はわかりますよわかりますコウ今。
1:03:48	今審査中の値を仮に入るとこうなりますよってという話のわかるんですけれども、
1:03:53	なんかしれっと入ってるだけで、
1:03:56	その趣旨はっていう。
1:03:58	所。
1:03:59	が、何かわかるようなコウ、
1:04:02	なおかつこれはアノたせプラント側に、
1:04:05	説明していくんですよっていうのをちゃんと、
1:04:08	わかるような、審査中という言葉でわかるのかもしれないですけど、
1:04:13	うん。
1:04:15	北海道電力の青木です。取水可能時間というところただ数字書いてるところでこれをどう使いたいのかっていう事業者の考え方抜けてるっていうところの指摘かと思っております。
1:04:26	考え方としては融度がありますよっていうところを伝えたいところと、またその裕度があると言いつつも、プラント側で設定すべき数字だっていうところを説明したいところかと思っておりますので、
1:04:37	記載について検討させていただきます。以上です。
1:06:20	僕、ちょっと、
1:06:35	ですすねえ。
1:06:36	ちょっとさっきの 18 ページの内容なんですけれども、
1:06:42	これもう少し北海道電力の考えがわかるような、
1:06:47	説明をしてもらった方が、
1:06:51	いいのかなというふうに思いました。18 ページで、まずこの
1:06:56	貯留堰を下回る時間が長くなるメカニズムの分析結果は 48 ページにありますと。
1:07:04	いうことを言ってる、48 ページを見たら、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:12	なな。
1:07:13	この後、
1:07:15	メカニズムは何なんですかねこの。
1:07:17	ちょっとこの、
1:07:20	重なることで長くなるのが、
1:07:22	メカニズム
1:07:25	でそそうなのを、
1:07:27	説明するまでもないような話かなと思ったんです。
1:07:31	これが本当に北海道電力の考えてる。
1:07:35	メカニズムなんで、
1:07:43	当北海道電力の青木です。
1:07:46	衛藤 48 ページっていうところで、何を説明したかった。
1:07:51	かっていうところなんですけれど。
1:07:53	上昇側の組み合わせ評価の中から、位相変動施策評価から最大ケースを選ばれてきているというところもあってこれが何で大きくなったのかっていうところを簡単に 1 ページでまとめたものというふうに考えております。
1:08:07	大きくなったメカニズムっていうところは、加古川の波とかコガの波が重なって時間が長くなったっていうところは簡潔に記載した方がわかりやすいだろうというところですので、いシンプルに書いてるところになっております
1:08:20	もう少し細かくお伝えしますと、
1:08:23	当然、組み合わせ前の地震、貯留堰を下回る時間っていうところに対して、
1:08:30	全時間の前後っていうところで花崗岩の波が重なって長くなってるとっていうところかと考えております。
1:08:38	以上です。
1:09:15	井谷ですけど。
1:09:19	すごくシンプルに書いてしまったけれども、
1:09:22	要するに第 2 は、が下がるところ下がり、
1:09:26	下がって 0 メーターぐらいになるようなところに、
1:09:31	頭のオカコガの波が重なっているから、
1:09:36	何ていうんすかね、そのずっと 8 始まりの時間のところが増えるし、
1:09:41	4%が上がってくる、4%が 0 メーターよりも上がってくるようなところで、陸上地すべりの川白戸、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:50	下の加古川と重なるからここが若干プラスされたりするという事で最大限ここプラスされてるんだとか、そういう説明のように今、
1:10:02	聞いて思ったんですけど。
1:10:04	あそこはメカニズムの分析っていうことなので、
1:10:08	ちょっと
1:10:11	今の説明を足すなり何なりしてもらったらと思いますけど説明は、
1:10:17	わかりました考え起こりまし。
1:10:20	そういう話であれば、49 ページも、
1:10:25	重なっていることを確認するって言うてるんだけど何がどう重なっていることを確認しているのかと。
1:10:34	いうふうな、
1:10:37	説明がないと。
1:10:39	よく、
1:10:40	伝わってこない。
1:10:42	で、もう1個はですね49 ページで妥当性確認してるんですけどこれは、
1:10:47	どういう位置付けなのかっていうのを確認したくって、選ばれた波が、
1:10:55	選ばれた波だけをこうやって説明する。
1:11:00	っていう位置付けなんですかね、チャンピオンになったものが、
1:11:03	どういう波だったかを分析しているっていう位置付けなんですかそれとも、そもそもの波源選定からして、こういった波が選ばれたのが妥当なんだっていう、
1:11:15	どっちなんですかね。
1:11:18	藤北海道電力の青木です。
1:11:20	答えとしては、全社を考慮しておりまして、貯留堰を下回る時間のチャンピオンケースに対して分析をやってその結果、上限値に近いところを確認してるので、これ以上長くなる可能性はないと。
1:11:35	いうふうにまとめております。以上です。
1:11:40	それはその波の上限値に近いことを確認しているのもあって、
1:11:45	他の並みの上限値はもっと長くなるようなこと。
1:11:51	はあるのかないのか、ひょっとしたら、
1:11:56	そういう話がコウなんか最初の、
1:11:59	何だっけ。
1:12:01	伝播経路の。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:04	違いとかでとも関係するのかな 15 ページの話だとかに関係するのかなとか。
1:12:10	思ったりはするんですけども。
1:12:12	その辺のね、何か
1:12:15	北海道電力がどう考えてこれが妥当な波源なんだって言ってるのかがよくわからなく、
1:12:23	どうなんすか。この上限値が、ここで 49 ページで示しているような、波源よりももっと長いような上限値があるような、
1:12:35	上限値になるような島縁部の波源っていうのは考えられるんですか、考えられないんですかそれともわかんないんですか。
1:12:46	北海道電力の青木です。
1:12:48	ちょっと現状の資料中ではこの上限値、波源ごとにいろんな波源でどのような傾向あるかっていうところを整理しきれてないところにはなっておりますが、考え方っていうところで、
1:12:59	等も加古川そもそも上昇側の 2 羽と 4 は、に規定されているというところで、その 2 羽と 4 は、についてはどの波源でも共通したような時間体。
1:13:10	なっておりますのでこの上限値についても、波源によらずで同じような値になるのではないのかなというふうな考えを持っているところになっております。以上です。
1:13:25	はい。多分そういうことが言えればですねもう少しこの辺が、
1:13:31	出てきたものがこれ出てきた、選ばれたものがこれ以上増えませんかという話ではない。
1:13:38	コウは下の、
1:13:39	選定の妥当性っていうのが、
1:13:43	説明されるのかもしれないんですけども、
1:13:46	ちょっと今の部分では確認するまでわかんなかったんですけどただ単に選ばれた波源が、
1:13:53	もう伸びませんわって言うだけの様な気もちょっときて、
1:13:58	あれじゃ。
1:13:59	本当に全体の妥当性としてはどうなのかなっていうのが気にはなりましたけど。
1:14:05	ちょっと考えがあるんであればですねそれを資料にさせていただいた上で、議論したいなというふうに思います。
1:14:12	何かこう大事なエッセンスが資料上に、確かにあるんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:23	2羽と4羽の伝わり方がこうなんですよという話。
1:14:29	で、一定になるんですよっていうような、その時間は一定になるんですよっていう話は、前は確かにねあったと思うんですけども、
1:14:39	これ、
1:14:40	何か波を重ねたやつ。
1:14:43	整理したものとかって今も残ってるんです。
1:14:51	2羽と4羽はがほぼ同じ時間で時間差になります。
1:14:56	当北海道電力の青木です。
1:14:58	2ハタ4羽の間の時間っていうところですけど、補足説明資料、分厚いほうの資料の、
1:15:04	11ページ以降に具体的な例っていうところで、
1:15:08	何ケースか示しているところになっております。
1:15:11	その結果を見ますと、東西方向で位相がずれたりするので、
1:15:17	乗せるケースってのは、ページごとにちょっと調整してるところではありますが、2ハタ4班の間の時間というのは、いずれの波源についても共通して、
1:15:26	同じような時間っていうところは確認できているところになっております。以上です。
1:15:34	だから、つなげていけばいいのかもしれないですね、わかりました。これが元になってて、
1:15:43	15ページのような説明もできるんだと。
1:15:48	うん。逆に言うと、
1:15:49	15ページを説明するためのエビデンスって何なエビデンスっていうか、
1:15:54	考えて何なんですかって言うのを見ると、
1:16:00	補足の12ページ13ページであったり、前に何か
1:16:04	にあと4羽の伝播経路のコウスナップショットみたいなのがあったと思うんでそれはもう残ってんです。
1:16:12	北海道電力の青木です。
1:16:14	そのスナップショットについても本編資料で掲載しておりますが、概要のところでは、先ほど15ページで、管、失礼、15ページでも考え方示してるのでその詳細な内容というところで、
1:16:27	ホームページは32ページとか、
1:16:30	掲載しているところになっております。
1:16:33	以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:16:39	31 からセットでこういったものがある、あ、そうですね 34 ページにあるんですね。だから、
1:16:47	ここ、これがセットになって話ができてる、2 ハタ 4 班の時間はほぼあって、
1:16:55	メカニズムもこうだからっていうのが説明できるってことなんですか。
1:17:02	この 34 ページでさっき言った 12 ページとかと一緒になんです
1:17:06	北海道電力の青木です。34 ページで記載してるところは先ほど補足説明資料を使っていたところをまとめたものが 34 ページで説明した内容は共通になっております。以上です。
1:17:20	さっきの影響がの話、マイナス 4 メーター程度だからとかいうのが、
1:17:29	何ページか。
1:17:31	重ねてもす 50 ページか。
1:17:38	重なったとしても、
1:17:40	0 メーターよりも、
1:17:43	すでに上がってるような波源が -4 メーターより下になることはないんですっていうことを、
1:17:49	てる。
1:17:52	これ、もうちょっと説明を。
1:18:02	この説明がわかりやすいんですかね
1:18:08	なんか、
1:18:14	最後の困るの上記保守的な組み合わせ評価。
1:18:21	における、
1:18:22	貯留堰を下回る時間が、
1:18:25	組み合わせ評価における、
1:18:27	貯留堰を下回る時間の、
1:18:30	上限値となる。
1:18:31	どこ行って、
1:18:36	上記の保守的な組み合わせ評価。
1:18:40	保守的な組み合わせ評価というのは、仮にっていう話だとか、
1:18:45	もう少し何か、
1:18:54	わかりやすく説明してもらった方がいいかなと思いましたけど。
1:18:57	ただ、
1:18:59	言わんとしてることはわかります。
1:19:04	1 回、第 2 版のピークの 0 メーターより上がったところは、
1:19:09	もう重なっても、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:11	マイナス 4 メーターより下がることはないんで、
1:19:14	4 羽の、
1:19:16	4 羽のピークに向かって上がっていくものが、0 メーターを超えたような
1:19:21	位置にあるもの、それは重なっても、
1:19:26	-4 メーターより下がることはないんですと。
1:19:29	そういうことを言ってるんですよこれはね。
1:19:35	北海道電力の青木です。
1:19:38	例えば 50 ページの一番右下のところ、
1:19:43	今上限値っていうところ紫で書いておりますが、左側の領域とか右側の領域っていうところが、そもそも 0 メーター以上で-4 メーター。
1:19:55	頭の一番ピークかコガのピークと重ねても下がらないよっていうところを記載するとわかりやすくなるのかなと思いますので、ちょっとその辺り検討させていただきたいと考えております。以上です。
1:20:29	井谷です。だから、あれですよ。そもそもどの波源でも、第 2 はと第 4 版の時間差っていうのは、同じような時間差なんだから、
1:20:46	だから、
1:20:47	ちゃんと組み合わせていけば、
1:20:50	ここが組み合わせるような、だから、
1:20:53	起点と終点が組み合わさるような波を、と重なっていれば、もうそれがほぼほぼ最大なんだろうということを言いたいと。
1:21:02	ということかと思いました。
1:21:04	あとはねなんかこれだ単に言葉じりなんですけど、
1:21:12	52 ページで言うかな、52 ページで、
1:21:18	うん。
1:21:22	この青で書いている波源選定の妥当性の最後に、
1:21:27	これ以上、貯留堰を下回る時間が長くなる可能性はないってここまで、
1:21:33	本当に言っているんですかね。
1:21:41	北海道電力の青木です。
1:21:43	波源制定の妥当性を説明するにあたっては、何でだとかっていう理由付けが要るのかなと思っておりまして、その中で上限値って言うので、それより長くなる可能性はないと。
1:21:55	いうところを、の記載を追加したところになっております。以上です。
1:22:42	はい。
1:22:44	うん。ちょっとこの辺の記載が、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:46	私は誤解を招く可能性があるし、この波源ではこうなんですよっていう話なのか、全体としても絶対にこれがチャンピオンなんですっていう、言い切ってるんだったら生きてるでいいんですけど、
1:23:00	その子、
1:23:03	心によって私たちもこう議論する内容が変わってくる。
1:23:07	C、そのロジックがこう違うっていうことになると思うんですよね
1:23:11	この波源の話なのか全体の話なのかっていうことで、
1:23:15	その辺はわかるようにですねしていただきたいと思います。
1:23:19	だから、この 52 ページだとかでこの書いているようなことは、もう少し丁寧に、
1:23:25	53 ページもそうですけど、丁寧に、
1:23:28	書いた上で、全体としての波源としてはどうなのかっていうのを、
1:23:35	全体としての波源、
1:23:38	の中で、もう、網羅的についでいうのか、妥当なと言うのかその辺がしっかりと選ばれているんですっていうような、
1:23:47	説明。
1:23:51	をしていただけたらなというふうに思います。
1:23:55	ちょっと最後私の感想みたいなことで、すみません。
1:23:59	とりあえず私全体を通して確認できました。
1:24:15	規制庁の名倉でちょうど今関連があるところで議論をしたので聞きますけど、
1:24:23	本編資料、コメント回答資料の 5253 ページとかで、
1:24:29	可能性はないって強い言い方をしたことによって、これを最初に見たときに、
1:24:35	うん。
1:24:37	それぞれのこの波源のケース、
1:24:40	においては、
1:24:42	おそらくそういえるんだろうけど、
1:24:44	これを全体に拡張して、言うためにはどういう検証、妥当性検証があったら、
1:24:50	そういえるのかっていうのをこの時点で肝機能かあれこれじっと見てて考えたんですけどそれは、その答えは、
1:24:59	補足説明資料の 11 ページ以降で、
1:25:03	具体的な、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:05	数字とかは載ってないんだけど、だいたいみんな 25 分ぐらいですよって丸め込んで言ってるんだけど、
1:25:14	そこでちょっとふと置きしたかったのは、
1:25:18	上限時間っていうのわあ、
1:25:22	上限値と言ってるものについては、
1:25:26	これ 0 事故を通過するところの量ハバノな長さで、
1:25:33	0 事故を通過するところの量ハバノ長さが大きい。
1:25:37	波源を、
1:25:39	この補足説明資料の中でいろいろやってるケースの中から選ぶとどれになりますか。
1:25:45	それに対して重ね合わせても、
1:25:49	仮に重ね合わせたとしても、
1:25:51	今選定してるケースでも長くなりませんでした。
1:25:55	て言えたら、
1:25:57	おそらく、
1:25:58	今やってる限りにおいてはこれ最も長いもので、これ以上長いものはほとんどありえませんか。
1:26:05	っていえるんだけど、そういうことやってますか。
1:26:09	今から会合まで。
1:26:11	多分 2 週間ぐらいですけどそういうことをちょっと確認するぐらいだったらできるから見てみたらいかがですか。
1:26:19	藤北海道電力の青木です。
1:26:22	当間解析自体は、結果として持っていて、2 羽と 4 班の間の時間であったり、今上限値っていう議論になってる 0 黒須の間の時間、
1:26:32	ていうところろろろを整理して、何かいえるところがあるんじゃないかっていう、論理として補強できるんじゃないかっていう観点で検討していきたいと考えております。
1:26:42	以上です。
1:26:44	名倉です。本来だったら
1:26:47	少し検討しようとする内容なので、
1:26:51	あれですけど、
1:26:53	何かこう、
1:26:55	どういうことを言うためにはどういうことや、
1:26:59	やるとそういえるのかとかそういうことを少し、
1:27:02	考えて、妥当性の確認として、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:08	数的にどういことを押さえたら、どこまでいえるのか。
1:27:12	いものをちよつと、
1:27:14	これはもう補足的な検討ではあるんですけど、どこまで自信が持てるのか、世界かもしれないけど、
1:27:20	少し、
1:27:23	答えられるようにしてもらえると。
1:27:26	いいかなと思います。私からは以上です。
1:27:30	北海道電力の青木です。
1:27:32	2羽と4羽の間の時間とか、ある程度の
1:27:36	時間体ってのは一緒だと考えてるんですけど、デジタル値でどれが一番大きいとかそういった観点ではなくて全体の中でどれぐらいの幅を持てるかとか、そういったあたりで、論拠としていることないかっていうところを検討していきたいと考えております。以上です。
1:28:37	規制庁谷イセ
1:28:39	あとソーダ、
1:28:43	結局敷地に対して影響が大きい。
1:28:47	大きな影響を及ぼす。
1:28:49	波源これ上昇側の時は66ページの内容で、
1:28:56	わかりましたよと。
1:28:58	私も言ったんですけど、
1:29:02	これ加古川おんなじなんですかね。
1:29:07	下降側。
1:29:09	については、
1:29:19	とかそういうのはない、ないってことですね上昇側と同じように、
1:29:25	それぞれの、
1:29:31	形も出る前に、最大となる。
1:29:34	選定されるものが来、
1:29:37	異なるから選び、
1:29:39	二つ目の矢羽根は、
1:29:43	これも関係あるんですか。
1:29:45	津波は、
1:29:47	基準津波の策定後に実施する施設への影響評価においては、
1:29:52	評価値の大きい波源を選定することが、
1:29:57	津波防護施設や、
1:29:58	浸水防止施設等への影響の評価では、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:03	っていうのもこれ加古川にも関係するんですっけ。
1:30:09	藤北海道電力の青木です。
1:30:12	プラント側で説明してる事項になっていきますが加古川の評価についても防波堤の損傷がどういう影響あるのかっていうところを説明しなきゃいけないというふうに我々考えておりました、
1:30:23	その中で、今現状ですと健全地形モデルから上積損傷③まで、
1:30:28	その中でも一番厳しい波源っていうのを、プラント側に引き継いで、そのブランド班に対して安全側の評価になってるっていうところを説明したいと考えているところになっております。
1:30:39	なので上昇側と同様な考え方というふうにとらえておりました、加古川の基準津波の選定の仕方もそこに踏襲しているというところになっております。以上です。
1:30:57	はい、わかりました。だから 66 ページは、
1:31:00	これは
1:31:02	加古川も上昇がもうおんなおんなじ考えで、
1:31:06	整理してて、この 66 ページは、
1:31:10	今回下降側の評価結果と言いつつ、
1:31:14	共通ってことですね、上昇側も下降側もあわせてここ、おんなじだからおんなじな内容で説明しているっていうことで、
1:31:23	いいですか。それでもこのもうサンポつあれか。すでに上昇側も下降側も朝、合わせて説明している。
1:31:32	章立ての部分なんだということなんですかね。
1:31:36	北海道電力の青木です。
1:31:38	今回について加古側のコメント回答っていうところになるんですがサンポ値については上昇側について変更がありませんというところを明記できるような形っていうところで、
1:31:49	除ショウガンも含めて整理しているところになっております。
1:31:52	上昇側については前回示したものと同じものになってまして、考え方も同じであるというところで、3 章については、上昇下降両方含めた形で今整理しているところになっております。以上です。
1:32:05	はい。
1:32:09	はい。はい、わかりました。
1:32:13	あとは、70 ページに、
1:32:16	ちょっとこれはもう確認なんですけど、検討方針っていうのが、
1:32:22	書いてて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:36	まず 7' のところ、俗に言うポートンねルー
1:32:41	の検討ですね。
1:32:44	基準津波の影響評価の検討方針。
1:32:47	検討方針、影響評価については、
1:32:51	もともと次回の会合
1:32:54	ぜひ入れたいという話で、
1:32:56	あの子、
1:32:57	工程の、
1:32:59	話だとかであったと思うんですけれども、
1:33:03	今回、僕らの方から、ちょっと状況説明品する条件を説明すると 12 月の頭であれば、
1:33:14	会合できる可能性があるかと。
1:33:17	ということで、今それを目指してやるとしたらですね。
1:33:22	これも何か追加して説明されるんでしょうか。今日のヒアリングの内容で、もうすでに
1:33:31	いろいろ検討するようなことが、
1:33:34	検討ではないですけど、
1:33:38	もう少し整理したいというようなことがあったと思うんですよね。
1:33:42	それとあわせて、
1:33:43	資料ブラッシュアップして、しかもコウ、
1:33:47	この茶津入行トンネルの話を、
1:33:51	入れたいというんだったら、いつそれがこう聞けるようになるのかそれとも今日のヒアリングを踏まえると、
1:33:57	もう例えば加古川だけにするのかとかそういう考え今何かありますか。
1:34:07	はい。北海道電力松浦といいます。
1:34:09	今日のヒアリングも踏まえまして、我々の方といたしましては、7 の下降側、今、いろいろヒアリングしていただきましたが、7 日コウ側の方、
1:34:21	優先的に審議していただきたいというふうに考えております。また、7' につきましても、今、整理をしておりますので、それは、
1:34:29	整って、段階でまた改めて別の機会に説明させていただきたいなというふうに考えてます。以上です。
1:34:38	わかりました。条件整理すると 12 月頭に会合をすれば、もう下降側だけでやるんで、もしその条件が、12 月頭には入らないで 12 月のもう少し
1:34:50	後の時期になるとか 1 月になるとかになれば、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:34:53	ところのトンネルの話もあわせてやりたいとです。それに向かって準備は着々と進めるということでもいいんですかね。
1:35:02	はい。北海道電力松浦です。今谷さんおっしゃられた通り、我々の方もし、作業進めていきたいと考えてます。
1:35:10	井谷です。状況わかりましたご希望をは確認できましたので、ちょっとそれを踏まえて介護のスケジュールとかも調整していきますし、あとはロジ的な連絡として
1:35:22	連絡させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。
1:35:26	なので、ちょっとこれ一と資料がいつできるのかとか、いうのが、もちろん今ここを目標にしますっていうのを聞いたら聞きますけど、
1:35:35	それが、
1:35:36	今言えないんだったらまた分かった時点で連絡いただけたらと思い
1:35:43	はい、北海道電力松浦です。資料でき次第またご相談させていただきたいと思ってます。
1:35:50	はい、わかりました。でき次第というか、できるめどが立ったらですね。 はい。承知しました。はい、わかりまし
1:35:57	じゃ特に北海道電力からなければヒアリングはありますけど、
1:36:00	どうですか本店さんも含めて、
1:36:03	得ないですか。
1:36:09	本店は特にございません。
1:36:13	はい谷です。それでは今日の、
1:36:16	ヒアリングを終わりたいと思いますどうもお疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。